

光が丘女子高等学校 1年生 杉浦さくらさん

(2010年7月14日～4週間コース ガーディアン先生付きプラン)

Once in a lifetime chance

この留学を申し込んだ時、ちょうど学校の定期テストが近く、留学の心配をしている時間はありませんでした。なんとかなるでしょって思っていました。でもいざ出発する直前となると不安はたくさんありました。初めて一人で海外に出ること、24時間英語のこと、危なくないかなとか、ちゃんと着くかなとか、いろんな不安がありました。でも一番不安だったのは、友達が出来なかったらどうしよう



ってずっと飛行機の中でも考えてました。でも実際セブに着いてから2日目ぐらいにはkoreanのお友達が何人か出来ました。Roommateもすごく優しくいい子で安心しました。私が行った時はまだjuniorがいなくて、みんなが私より7つとか8つ以上歳の離れた大人ばかりで、最初はどう接すればいいのかわからなくてとまどったけれど、私は私のまんまでいたらどんどん仲良くなれました。目と目が合って笑っただけでHow old are you?と聞かれ、15years oldって答えるとoh! very young!!って言ってそのまま友達になれました。そんなふうにして、classmateでも、バッチメイトでもない友達が2週間目には数えきれないぐらい出来ました。授業も最初は不安だったけど、先生もclassmatesもすごく面白くて、優しく、すぐに慣れたし、あっという間に時間がたってしまいました。日本でただ勉強していれば気づかない発音。この留学の途中で、自分の発音の悪さに気づき、徹底的に教えてもらいました。RとLを発音するときの舌の使い方の違い、thinkのthとwithoutのthの発音の違い、日本にいて紙の上の勉強では学べない大切な事をたくさん学びました。CPILSでの私の生活は90%以上koreanでした。もちろん英語だったけど、全然不便ではありませんでした。語順はめちゃくちゃだったと思います。でもみんなゆっくりの私の英語を理解しようとしてくれました。残り一週間となって出会えたkoreanのjunior達。みんな私と同世代だったり歳下だったりと様々だったけど、すごくなかよしでした。一緒に映画を観たり、買い物をしたり、プールに入ったり、ダンスを習ったり、外でゲームをしたり。彼女たちともたくさんの思い出があり、もっと一緒にいたかったです。私は彼女たちと一緒にいて、koreanとJapaneseの壁が全く無いように感じました。そんな風にしてあっという間に4週間過ぎてしまいました。最初寂しくて家に帰りたいと泣いてたのがウソのように、周りにはいつも助けてくれる友達がたくさんいました。1:4の授業でも、1:8の授業でも、いつも友達に助けられていました。普段の生活でも食堂の行けば一緒に食べようと誘ってくれる友達、空いている時間に会うと、一緒にしゃべろうと声をかけてくれる友達。会うといつも頭をなでてハグをしてくれるお姉さん。テストの一週間前から毎日、1:1で特別授業をしてくれた私のスチューデントコーディネーター。他にもたーっくさんいろんな人にこの一ヶ月支えてもらいました。そんな人たちにたくさんありがとうございます。たくさん言ってきたけど、もっともっと。今回出会ったたくさんの友達とこれからもメールや電話でつながってみたいです。